



ユニ総合計画の グリーンレポート

1級建築士 秋山英樹
不動産コンサルタント

158号

発行日2024年8月号

「能登半島地震の被災地を視察してきました」

今年1月に起きた能登半島地震の現地を富山からレンタカーで7月27～28日のかけて、穴水・珠洲・輪島・和倉温泉と回ってきました。

道路は珠洲市から輪島への海岸ルートの道路は閉鎖されていましたが、その他はほぼ全面開通しています。しかし、すべての道路の亀裂の補修は終わっていますが、起伏の状態は全てにわたり大きく幹線道路でも60キロ程度の速度でないジャンプしてしまうくらいの状態で、多分この状況は10年やそこらでは修復できないと感じました。地盤の隆起に伴う道路の起伏の状況は、阪神大震災や東日本大震災も視察しましたが、今回ほど大きくはなく、写真では分かりにくいと思いますが建物被害を除けばこの違いが大きいと思います。



建物状況は皆さんのテレビでご覧になったかと思いますが、いまだに解体除去された建物は少なく復帰にはかなりの時間がかかると思います。

海岸近くの建物は古いせいもあるのかもしれませんが、ほぼすべての建物が崩壊に近い姿になっています。特に多くの建物が1階の崩壊です。

また今回特徴的でしたのが、海岸に近い建物は崩壊したものが多くですが、海岸近くでも高台に建てられた建物では被害を免れた建物が多いです



海岸近くでも倉庫のなど壁が多く矩形形状の建物には被害が出なく構造バランスが重要なのです。



輪島の岸壁は地割れや隆起が激しいですが、今だ修復できていませんので歩くのに要注意でした。



また鉄骨造の建物でも、施工が悪かったりメンテが十分でないものは柱などが錆びて崩壊です。



テレビで紹介されていた崩壊ビルは地面にめり込んで崩壊しており、このような崩壊の建物は初めて見ましたが、現在原因解明中です。

